



島根県立三刀屋高等学校 掛合分校

校長 癸 『ほんりゅう』

【7月号】 令和5年7月3日



■残されたワンピース

本校校長室の棚に3つの硬式野球ボールがあります。

1980年に開催された県春季高校野球選手権大会、山陰選抜大会、中国大会のウイニングボールです。当時エースとして活躍されたAさんから、2014年9月にご寄贈いただいたものです。



中国大会

山陰選抜大会

県春季高校野球選手権大会

今から43年前の1980年。本校野球部は快進撃を続けていました。県春季高校野球選手権大会、山陰選抜大会、中国大会の3大会すべてに優勝し、まさに無双状態でした。そして、1978年以来2度目の甲子園出場は間違いないといわれていました。夏の甲子園予選も1回戦で津和野高校に2-0と快勝し、2回戦で江津工業高校と対戦しました。試合の日は、全学年対象の夏季補習中でしたが、校内放送で試合経過が流されていました。試合は1-2で追いかける展開となりましたが、誰もが逆転勝利を信じて応援していました。しかし、さあこれからという時に降雨のためコールド負けとなり、その瞬間2度目の甲子園出場は幻と消えました。当時高校1年生だった私もその現実を受け止められない気持ちだったことを鮮明に覚えています。

寮生だった私は、その特権？として寮の先輩方を通じて寮生以外の上級生の方々とも入学後早々に関わる機会が多く、野球部の先輩方からも可愛がっていただきました（本当の意味で笑）。Aさんは制球力のあるサウスポーでメンタルも強い方だったと記憶しています。

ご寄贈いただいた当時のメモには、「Aさんは『夏の大会には優勝できなかったものの、この3大会すべてに優勝できたのは、一つ一つの試合を最後まであきらめず粘り強く戦い抜いたことであると今でも心からそう思っています。野球に限らず、勉強に部活動に一步一步あきらめず粘り強く取り組んでほしい。』とこのボールを渡される時、思いを込めて話されたことが印象に残っています。」と綴ってあります。

「夏の大会も当然優勝し、甲子園出場は間違いない」と周囲が勝手に期待する中で試合に臨むことはどれだけプレッシャーがかかるものだったか、そしてどんなに悔しい思いをされたことか今なら容易に想像できます。しかし、当時先輩方にそんな気遣いや思いを抱けなかった自分が申し訳ない気持ちになります。

あれから43年経ちました。その間、夏の大会はベスト4が4回、準優勝1回。掛合分校の先輩方もそのメンバーとして活躍されました。昨年も含め、本当に栄冠はあと一步のところに来ています。いよいよ、今年も夏の大会が始まります。もちろん、甲子園出場を目指して大会に臨んでほしい気持ちはありますが、勝負に“絶対”はありません。しかし、一つ一つの試合を最後まであきらめず粘り強く戦い抜くことで、43年前の先輩が成し遂げられなかった“最後のワンピース”を手にすることができるかと確信しています。

私たちも、勝ち負けという結果以上に、選手の皆さんが最後まであきらめず戦い抜くその一瞬一瞬を精一杯応援したいと思っています。

*本文中では個人名ではなくAさんと表記させていただきました。